

JBC シリコンバレー バイオツアー 2009 フィードバック

(参加者1)

私はJBCツアーが開催される1週間前にシリコンバレーにつき、2泊3日のツアーでは回り切れないGoogleの初代のコンピュータサーバーの電子機器(?)が展示されているコンピュータサイエンスミュージアムや、ベンチャー企業群等様々なところをまわりました。もし、シリコンバレーで開催されるツアーに参加したいとお思いの方がいらっしゃったならば、可能な範囲内でツアーの前後でシリコンバレーやサンフランシスコ等周辺地域をまわることをおすすめしたいです。なぜなら、自分がもしシリコンバレーに住んだとしたならばどのような生活を送ることになるか、という現実的なところまで落とし込まなければ、ツアーのみではシリコンバレーの魅力はわかっても、シリコンバレーが本当に自分にあっているのかどうかまでは判断できないからです。だから、有名なIn and Out、Best Buy や Chinese Market 等日常生活を送るうえで必ず使うであろうと思うスーパーやレストランなどもまわってみて、シリコンバレーで生活するイメージをもったうえで参加することができました。逆にいうと、私の経験談はツアーに参加してというよりは、ベイエリアにきてみてということになってしまう部分が多くあり、それをここでシェアをしても意味はないと思うので、ツアーに参加しようと考えていらっしゃる方の参考となるよう、私からみた「町全体としてのシリコンバレーの魅力」と「改めて感じた日本の素晴らしさ」の2点について述べようと思います。

まず、町全体としてのシリコンバレーの魅力です。よくシリコンバレーで働くことの魅力として、優秀な人材な豊富さと開かれた風土による知恵の融合のしやすさがあるといわれます。エンジニアひとつとっても世界的にみて非常に優秀な人材がそろっているのに、そのすぐ近くにはバイオのエキスパートがいてというように、様々な分野を横断して情報交換したり、議論したりすることができる環境というのはここ以外にはないだろうと確かに思いました。しかし、私は実際にきてみて本当のシリコンバレーの魅力は、もっとマクロ的なものでとらえることができ、それは「様々なライフスタイルを自由に選ぶことができる包容力」だと感じました。ほぼ24時間がむしゃらに働いているようなひともしれば、陽気な天気のもと昼間から仲間とお酒をたしなんでいるひと、家族と過ごす時間を大切にしているひと、そしてきれいな海でカップルでヨットを楽しむひと、ほんとうに様々な日々の過ごし方の選択肢があって、そのライフスタイルを容認する風土がありました。これは、私が東京で地下鉄に乗っているときに感じるような閉塞感とはかけ離れたものだったので、非常に感銘を受けました。陽気な西海岸な気候と雄大な自然が織りなすベイエリアに漂う雰囲気、ハードワークでも余裕を与えてくれる気がして、魅力に感じました。

もうひとつは、日本人移民から感じた日本の素晴らしさです。JBCツアーのオーガナイザーのみなさんは、シリコンバレーの魅力にとりつかれ、米国での永住権を獲得または獲得しようとして日本から移り住んできている方々ばかりでしたが、母国を抜けて移住してきた人々がそれでもなお母国や母国の人民の助けとなれるよう尽力して下さる人種というのは世界でも稀なのではないかと思いました。なぜならば、これまで私が会った移民の方々は別物であったからです。キューバの話をするとう憤慨しだすキューバを抜けてペルーに移り住んできたかた。母国マレーシアにアイデンティティはもちながらも、母国で家庭をもとうとは思えないと話しかた。平和な暮らしを求めて必死に勉強して、ニュージーランドですずっと暮らしたいと話すジンバブエ人。そういう人々と比べると、米国にきながらも、万が一のときには日本という帰れる母国がある、と大多数の方が話す様子から、日本の素晴らしさを感じずにはいられませんでした。そして、なかには日の丸を背負う気持ちで、シリコンバレーで働いているかたに巡り合えたことは、自分の将来の指針を考えるうえで、非常に参考となるものでした。なぜならば、それは日本人として日本のどこにこだわるべきかを徹底的にこ

だわるべきであるということをお願いしたからです。自分が感じる日本の良さを日本発にこだわってすべて自前でおこなっていくべきなのか、または、日本に拠点があるもののすでに整えられている米国のインフラを用いて活路を見出していくのがいいのか、はたまた日本という国を背負わず、自分が備えている日本という風土が育んでくれた良さを個人の視点として捉えて目の前のことを一生懸命にこなしていくのがいいのか、今後日本型の資本主義が見直されていくと考えているなかで、上記のように日本のどこにこだわっていくべきなのかを考えたほうが良いと言われたときは、はっと視界に沈滞していたもやがはれる気持ちでした。このような方々に出会え、心からシリコンバレーにきてよかったと思いました。

今回の経験を生かすのも殺すのも、帰国後の生活態度が決めるものであると思いますので、多くの方々の努力の結晶であった当ツアーの経験が無駄になりませんよういっそうがんばっていきたいと思います。本当にありがとうございました。

(参加者2)

私は最先端の地、SVではどんな人が働いているのかを一度この目で見たいと思い、JBC ツアーに参加しました。結論としてSVではいろんな人がいろいろな働き方をしており、一言ではまったく括れません。しかし、私が思う唯一の共通点が「覚悟」、自分の人生を背負う覚悟がある、ということです。様々なバックグラウンドの人と対等に仕事をしていく事、例えば泳いで国境を越えた人や想像もつかないタフな人生を歩んできた人と一緒に仕事していく覚悟。そして、自分の置かれている状況のリスク・リターンを正しく考え、あらゆる策を当然のように講じながら自分の決断を信じ、ただ道を切り開いていく事に対する覚悟。

自分の生き方を能動的に切り開くのも、何も選ばず、流されるままに生きるのも本来は同じくらい危険なことです。リスク・リターンは自分が動いたときにのみ発生するのではなく、自分が動かなかったときにも等しく発生します。今までは奇跡のローリスクハイリターンモデルである終身雇用制で、全てのリスク・リターンが隠されていました。しかし、これからの時代、漫然と終身雇用制を信じて大企業で働き続けるのは、ひょっとしたらリスクの対象にすらならないかもしれないと強く思うようになりました。

そう考えると、日本で働くのもSVで働くのも、きつともっと別の国で働くこともイコールになると思います。世界はとても広いけど、結局住んでいるのは人間で、仕事をしているのも人間だからです。スーパーマンの大群が仕事をしているのではなく、前を向いて、腹を括った人間が仕事をしているところがSVだと、思うようになりました。

世界に産業の中心地はたくさんありますが、特にシリコンバレーを特別視する理由は、なんとと言っても小さな地域に最先端が詰まったその特殊性、そしてその特殊性により積み上げたブランド力が偉大だからです。すばらしい人間の周りにはすばらしい人が集まりやすく、そこには新しいアイデアがあふれてくる。今回のツアーのように、刺激的な人物に日常的に触れ合っていることは、自分自身を活性化することにもつながり、必然的に刺激的な人生になると思います。

今回のツアーは、自分自身の当たり前の人生を背負って生きていく覚悟を決めるきっかけになりました。世界はシリコンバレーにしかないのではなく、自分が道を拓けばどこでも新しい世界だと思えるようになりました。それらを踏まえて思うのは、テクノロジーの世界で生きていくのに、シリコンバレーを知らないのはあまりに危険だということです。シリコンバレーだけが世界ではない。しかし、これだけ人も技術もお金も集まっっていて、物事を吸収しやすい土地はそうありません。だ

から、私はできるだけ早くシリコンバレーに来たいと思います。そして自分の position を作りた
と思います。

最後になりますが、参加者の皆さん、出会えて良かったと心から思います。これだけ刺激的な人
達とこれからの世界を生きていける事をとてうれしく思います。そしてこのツアーで先輩として
生き様を見せてくださった講師、パネルの皆さん、ツアーを企画してくださったオーガナイザーの
みなさんに心から感謝いたします。私もいつか皆さんと同じ場所に立てたらと心から思いました。
いろいろな事に気づかされる、本当にすばらしいツアーでした。ありがとうございました。

(参加者3)

私は、日本でバイオエンジニアリングを専攻する修士学生として、将来に対して、「このままずっとバイオを
やり続けるのか」、「日本のバイオ産業はアメリカに比べてどうなのか」、「将来的に見て、PhD はやはり必要
だろうか」、「研究だけでなく、ビジネスにも興味あるが、一体まずはどんな職業につけばいいのか」、「PhD、
MBA、ベンチャー、留学…」など日本で一人で考えていても答えの見つからない問いに悩まされていました。
そんな時、いつも読んでいた赤間さんの blog にて JBC ツアーのことを知り、迷わず応募したのが今回のツ
アーへの参加のキッカケです。実際に、これらの問題意識を持って、挑んだツアーで得た答えは、「答えは
ない」、「答えは誰も知らない」ということ。特に変化の激しい現代において、数年先のことすらわからない中、
長い将来のことを憂いていても仕方がない。どんなプロフェッショナルにだって、一体どんな技術、産業が次
に来るのか、そのために必要な能力、スキルは一体何なのかはわからない。そんな中、信じられるのはた
だ自分自身であり、自分が楽しいと思うこと、好きなことに今一生懸命集中し、それを積み重ねていくこと。
その中で常にアンテナを張って、チャンスを逃さないこと、それが大事だと気付きました。ただ一つ、言える
ことはシリコンバレーには、日本とは比べ物にならないほどのチャンスが転がっていること、ここの技術、エ
ンジニアのレベルは日本とは比較にならないものであるということ(ただ、逆に日本は負けていない、勝負で
きるという感想も持っていますが)。留学、就職、転職、起業…どんな形であれ、またこの地に戻ってきたい
と思わせてくれるツアーでありました。今日からできること、それは、自分を騙さず、今楽しいと思えること、
好きなことに日々打ち込んでいくこと。そして、その積み重ねの向こうにこの地へ再び来るチャンスが訪れ
たとき、それを絶対逃さないようにしたいです。

(参加者4)

今回ツアーに参加して最も良かったことは、自分の目で見て確認することです。本やネットで知っていたこと
も知らなかったことも、自分の経験として取り込めたことは非常に大きいです。言葉とかでは伝わりきれない
雰囲気やニュアンスを含めて感じられたことはこれからの自分の進路等を決めて行くのに大きな助けにな
ると確信しています。

もう1点忘れてはいけないのは、ツアーに関わっている方々と知り合う機会を頂けるということです。全く接
点のないような個性豊かな方々と、人生の不思議な巡り合わせでお知り合いになれたことを本当に感謝し
ています。

(参加者5)

今回私は「閉塞感の漂う日本のバイオ業界に何らかの明るい希望を見出せないか？そのためには何を
シリコンバレーから学び、今後何をすればよいのか？」との疑問点の答えを見つけ出すべく JBC ツアーに

参加しました。

私が今回のツアーで感じ今後実現していきたいことを以下の3項目にまとめます。

(1) 明るく挑戦を楽しむ精神を持つこと

現地で会う方々みんなが、とにかく明るくバイタリティにあふれていらっしゃいました。シリコンバレーでは、Steve Jobs の”Stay hungry. Stay foolish.”との言葉にあるように、地域全体で「明るく挑戦を楽しもう」という精神が根付き、挑戦者みんなが人生の過程を楽しんでおり、それが成功例を構築するための一つの重要な要素であると感じました。自分がどの場所にいたとしても、上記の精神を持って活動していきたいと思えます。

(2) 自分の立ち位置の現状を把握し、自分の身をより良い環境に身をおくこと

今回のツアーで日本の外から見た日本の現状について、厳しいご指摘も含めいくつもの客観的なご意見をうかがうことができました。人はとかく自分の現状に対して主観的かつ好意的な感情を抱きがちですが、現状を何ら把握せず思考停止状態になるのは危険で、今回のツアーで客観的に物事を見ることの重要性を教えて頂いたように思います。今後も、シリコンバレーが優れている所及び日本が優れている所を客観的に把握し、自分の身をより良い環境に置くことを心がけていきたいと思えます。

(3) 何からでもよいのでとにかく始めること

今回のツアーは JBC メンバーの皆さん、そしてスピーカーの皆さんのボランティアにより構成され、参加者は非常に貴重な体験を共有できたと思っております。今回のツアーを通じて、悩むよりとにかく始めてみることの重要性、自分の利益となること以外のことへ目を向けることの重要性、そして継続することの重要性を強く感じる事ができました。今後も頭でっかちになるのではなく、何からでもよいのでとにかく始めていきたいと思えます。シリコンバレーを頭の中で思い描いているだけの方がいらっしゃいましたら、是非シリコンバレーを実際に見に行かれることをお勧めいたします。

(参加者6)

今回 JBC ツアーに参加して本当に良かったと思っています。様々な面で自分の考え方の幅が広がり、またブラッシュアップされたのではないかと思います。それは自分の考えや意見を真剣に話し、それに対して様々なレスポンスがあり、ディスカッションできる環境が JBC ツアーではたくさんあったからです。

中でも特に自分の今後のキャリアについて考えさせられました。パネリストの方々やツアー参加者はみんなそれぞれかなり異なったバックグラウンドを持った人達でした。そのような方々と交流できたことも貴重な経験でした。将来海外で働くにしても日本で働くにしても、シリコンバレーでの働き方、生き方に触れることで今まで見えてなかった進路がふっと目の前にたくさん現れたような気がします。

また世界最先端のバイオ集積地であるシリコンバレーの大学、企業を見学でき、CEO や社員の方にお話を聞いた事でバイオの産業としての可能性や難しさなどを実感できました。これもこれからの進路に大きな影響を与えそうです。

最後にこのツアーのパネリストの方々の共通に大切にされていたことが「人と人の繋がり」や「信頼」がでした。アメリカの雇用ではネットワークが重視されるためですが、もちろん日本でも大切にすることだと思えます。これからもここでの出会いや繋がり、今までやこれから先の出会いも含め大切に成長し人間力をつけていきたいと思えます。

(参加者7)

今回のツアーで、多くの方の実体験に基づく話はインターネットや書籍から得られる情報以上に迫力かつ説得力のあるものでした。なぜシリコンバレーでバイオテックが多く存在するのか、その背景にはベイエリアある3大学の役割に加えて、シリコンバレーでベンチャーキャピタルが果たしている役割について勉強する機会をもてました。私は日本とアメリカでポスドクを経験していることより、今回のツアーで見聞きしたこと、現在までの自分の経験を比較検討し、何が他人とは異なる体験であるのかをよく考え、そのことをシェアしたいと思っています。しかし、まだアメリカに来て1年10ヶ月、そして、アメリカで論文も書いていないので、論文作成した上で、シリコンバレーとシリコンバレー以外のアメリカでのポスドク生活、アメリカと日本でのポスドク生活の違いについて、世の中と情報をシェアしたいと考えています。そのためには、日々の研究に邁進すること、JBC ツアーで学んだこと以上にシリコンバレーのことを勉強することが今後の課題であると考えています。

(参加者8)

学部生や大学院低学年でこのツアーに参加された方々も多く非常にやる気に満ち溢れていました。自分もその頃にこのようなツアーに参加していたなら自分の今も少しは変わっていたのではないかと思います。さまざまな分野、さまざまな年代から参加者が集まってきていて、色々な視点からこのツアーの各プログラムに参加していたのだと思います。だから参加して得られたことは人それぞれだと思います。私個人としては、これまでも就活は行ってきましたが、米国で仕事を得るということをより具体的に考えさせられるいい機会になりました。また今回さまざまな製薬会社におられる方々の話を聞いて genentech 初めさまざまな Bay area のバイオベンチャーが抗体医薬、たんぱく質医薬を扱っているだけでなく、日本の各大手企業も抗体医薬に本腰を入れてきているのを見て、有機化学者として薬作りで“まず化合物を作れるのは我々だ”という時代ではなくなってきているのを実感し、少し寂しさを感じるとともにこれから Chemistry だけで生きていく時代じゃないなど、自分の身の振り方も考えなくてはいけないなどと思いました。鶴下さんのおっしゃったように自分の10年先は見えないですが今回得られた人との繋がりと自分のこだわりを大事にして頑張っていこうと思います。

(参加者9)

4日間という短い滞在でしたが、まさに人生のターニングポイントというべき貴重な体験をすることができました。応募動機を書いていたころは、アメリカに行った事もなければ、アメリカといえば治安が悪く怖い国というイメージがあり、もし将来留学できるなら絶対にヨーロッパ！！と勝手に思いこんでいました。しかし、帰国後の今では、バイオをやっている身ならやはり一度は渡米して研究してみたいと考えるようになりました。

実際にこのツアーへの参加が決定してからは、予習シリーズやスカイプによるミーティングがあり、研究の合間に少しずつそれらをこなしていくことで、現地であう予定の人々や行く予定の企業の概要、ベンチャーの仕組みなどを勉強していくことができました。事前にやる事が多く苦労した面も多々ありましたが、その分現地で得られるものが多く、予習の重要性を現地入りして改めて実感しました。

今回、国内外から学部生5人、修士3人、ドクター3人、ポスドク3人、社会人5人と計19名が参加し、多種多様な経歴を持つ個性豊かなメンバーが揃っていました。参加者をはじめオーガナイザー、パネラーのほとんどは、このツアーに参加しなければ、一生出会うことはなかったであろう人々であり、彼らと分け隔てなく夜通し語り合い、人との繋がりの大切さ、面白さ、そして別れの寂しさなど、実にさまざまな感情を短

期間で味わうことができました。またセミナーでは、日本を出たからこそ分かる日本の企業や大学の長所、短所を知り、アメリカのそれと比較することができたと思います。今回のパネリスト、オーガナイザーには女性が多く含まれており、女性研究者がアメリカで成功する秘訣、さらに仕事と子育ての両立の仕方など、将来役に立つ情報を聴講することができました。さらに、世界で 2 番目の規模を誇るスタンフォード大学の研究室を見学させていただき日米の研究室の体制の違いを直に感じるすることができました。ツアーを終えて日本に帰ってきてまだ数日ですが、この体験を自分の言葉で他の学生に伝えたいという想いや、できれば近いうちに留学をして将来の選択肢を増やしたい、視野を広げたいという意志を築く事ができました。これまで留学を視野に入れてはいましたが、いつかは行けたらいいではなく、いつ頃どういう目的でどこへ行くのかを今のうちから入念に考えようと思います。「迷っているなら一歩踏み出そう、そうすれば必ずとその次の選択肢が広がっていくのだから。」鶴下直也氏から言われた、もっとも印象に残った言葉です。現地で活躍されている日本人が一歩踏み出し、自身の未来を踏み出したように、私も踏み出してみたいと心から思える旅でした。

ここからはこの旅で感じたことです。

私は現在博士課程の学生であるため、日米の大学の研究室の違いに予てからとても興味がありました。アメリカの研究といえば最先端で、おそらく見たこともないような機器を使って研究しているのだろうとこれまでは想像していましたが、いざスタンフォード大学に行ってみると、研究設備や実験機器が最新でなくても、やり方次第で大きな成果が出せるということが分かりました。日本の大学では、各研究室単位で新品の機器を購入しているのに対して、アメリカでは共通の機器が多く、試薬やキット類なども他の研究室に借りに行行って使用しているというのを聞き、日本には無駄な部分はまだ多いのではないかと感じました。さらに、試薬を購入する際に複数の業者を通すことでコストが何十にも上乘せされているのに気にせず買っているという指摘を受けました。研究費の確保が難しいと騒がれている一方で、改善点は多々あることが垣間見られたと思います。また、確保した研究費を無理やりにも余ることなく使い切らなければいけないという日本の体制にも疑問を感じました。

また、英語に関してですが日本人は、中学校から大学まで、十年間以上英語を学んでいるにもかかわらず、話せる人が少なすぎると感じました。この度のパネルディスカッション等により、海外に出るならまずは英語が話せなくてはならないということを知りましたが、多くの日本人にはそれができず、大きな障壁となっています。個人の意欲も重要かもしれませんが、英語教育のやり方を国レベルで見直し、変えていく必要があると切に感じました。また、日米の教育の大きな違いに、プレゼンテーションの練習があると思います。アメリカでは小学生の頃から人前で自分の意見を述べる練習やプレゼン自体の能力(人の目を見たり、body language を使うとか。)を学ぶのに対して、日本の教育ではプレゼンの授業はないに等しい。テレビで見る政治家はカンペを見ながら演説をするし、大学の教授の授業ですら黒板の文字をひたすら写すだけ…など、良い見本もなかなかありません。私自身、人前で発表したのは大学に入ってからで、どう発表したらよいか分からなく苦労しました。ですので、プレゼンの授業等をもっと若いうちから増やすべきだと思いました。最後の2分間スピーチでもあったように、日米の若者の大きな違いとして、モチベーションの高さがあると思います。日本の若者は年々消極的になりつつあり、安定志向に走っていると思います。私の大学でも、不景気のせいもありますが、せつかく修士課程まで進学しても、その後は公務員等になる人が多く、博士後期まで進学する学生は全体の1割程度しかいません。今後は、日本の若者がもっと夢を抱いて冒険していけるような社会にしていけるような教育、制度を作るべきだと思います。

(参加者10)

今回このツアーへの参加を決めたのは、昨年の大学の GCOE の海外スタディツアーの報告セミナーを聞いた時でした。その時は、自分にとってスタディツアーはとても遠い存在であり、みんなにチャンスがあるという話でしたが自分に届くところにあるとは思っていませんでした。今までは、このような自分にとって大きなチャンスがあったとしても、一歩が踏み出せずただ傍観していたような気がします。山口京子さんのセミナーへの参加も今までの自分ならきっと行かなかったと思いますが、スタディツアーに参加したいという気持ちで一歩踏み出すことができました。そして Application form のエッセイを書いて、本ツアーの参加が決定しました。自分の中のほんの少しの一歩がここまで大きな外的変化をもたらすということに驚きました。同時に今まで自分が凄いなあと感じてきた人たちは、ひょっとしたらこの一歩を踏み出せたかそうでないかの違いなのではないかと思いました。これはツアーを経験して学んだことの、根幹をなす重要な事で、「一歩前に踏み出すこと」これは非常に重要なテーマだと思います。先の事は結局誰にも分からないので、自分を信じて一歩前に踏み出す。結果、思っていたことと違う結果になっても、またそこから次を目指していけばよい。こうやって人は前に進んでいくものだと思います。そうやって一歩踏み出すためには目指すべきものがあるので、まず自分が何をしたいかを考え、それを実現するためには何をすれば良いか計画を立て、あとは自信を持って進めば良いと思いました。そしてそうやって一歩ずつ進んでいってもどこかにゴールがあるわけではなく、「常に進み(探し)続ける」という姿勢が大事であることも学びました。

もう一つの学んだ事は「ネットワーク」の大切さです。人との繋がりはとても重要なことであり、特に自分と違う種類の人とのネットワークの大切さを学びました。常に失業のリスクがつきまとうSV市場ではネットワークは生命線であるといえます。どの繋がりからどんな仕事の話が来るか分からないので、常に広くネットワークを構築するという方が多かったのが印象的でした。またSVでは移民が多く文化も常識も違う人がたくさんいるので「違う」ことが当たり前であり、違うからこそコラボレーションが産まれるという発想がありました。日本では周りとは違うことは異端と見なされがちですが、SVではむしろ「違い=自分に無いもの」というように重宝されるようです。違う技術、理論のコラボレーションから新しいものが産まれるという視点からも、様々な分野の方とネットワークを作ることは重要だと思います。そして、今回のツアーで参加メンバーや、スピーカー、パネリストの方々とネットワークが出来たというのは今回のツアーで得られた最も貴重なものであると思います。

最後になりましたが、このような機会を作っていただきました JBC のオーガナイザーの皆様にご挨拶を述べ私の感想とさせていただきます。本当にありがとうございました。

(参加者11)

なんとなく漠然と「アメリカで働き、生活するってどんな感じだろう？」と興味はあるものの、アメリカに何のつてもなく、一人では最初の一歩が踏み出せない人には最適のツアーではないかと思いました。

また既にアメリカで働き、生活していても「ウワサに聞く“シリコンバレー”とはどんなところなのだろう？どんな人達が働いているのだろうか？」と、シリコンバレーと接点がない日々を送っている私にとっても興味深く、刺激の多いツアーでした。

今回、ほとんどの参加者の方が日本からこのツアーの為に渡米し、時差にも負けず高いモチベーションを保ったままこのツアーを遂行したのにはかなり驚きました。

逆に考えると、そういう人達だからこそ、このツアーに参加したのだろうなとも思いました(私はちょっと例外だったかもしれませんが)。

正味2日半と短い日数にもかかわらず、オーガナイザーの方々の「少しでも多くの人と交流し、生の声を聞いて欲しい」との思いからかなり濃密なスケジュールが組まれ、多くの方にお会いすることができ有意義な時間を過ごせました。

また、多くの方がご協力して下さったお陰で(しかも皆さんボランティアで)、新しい発見やまたとない経験をさせて頂け、このツアーに参加できてよかったです。

アメリカのバイオ分野についてあまり知らない人でも、オーガナイザーの方が送って下さった予習シリーズでツアー関連のことはかなりカバーできたと思いますし、今後も文系理系問わず気軽に(不安なくという意味で)たくさんの方が参加できるのではないのでしょうか(もし2回目以降があれば)。

ただ、いろいろな方がおっしゃっていましたが、「このツアーでシリコンバレーの全てを見せられるわけではないし、ほんの一部の人達によるシリコンバレーの一部の紹介に過ぎないから勘違いされては困る」というところには同感しました。

全ての人にとって受け入れられる場所や働き方でないことも改めて実感しましたが、今回お会いした皆さんは魅力的な方ばかりだったので、その方達にお会いできるだけでも価値のあるツアーだと思いました。

そして、たくさんの方の個性豊かな女性の方がこのツアーに関わって下さり、またシリコンバレーでご活躍されていることを知り、とても心強く励みにもなりました。

(参加者12)

このツアーの極意は勢いにありました。

わずか3日間という時間の中に詰め込まれたスケジュール、そのスケジュールを切り回す主催者、そして加速される参加者。ツアーに勢いが生まれ、その勢いに乗って多くのことを学べ、話せ、考えられました。

勢いに乗って学べたことは、世の中には考えもつかないようなことをする人間がたくさんいるということで、話せたことは、何をやるにしてもみんなで作るものだというので、考えたことは、いいものは世界中どこにいてもいいもので、それは世界中どこであっても賞賛されるべきものだという事です。

非日常は日常を刺激します。そんなことをあらためて発見できるツアーでした。

(参加者13)

4日間という短い日程でしたが、このツアーに参加して、他では経験する事の出来ない非常に貴重な体験をすることが出来ました。スケジュールがかなりタイトに組まれていたのですが、事前の予習(メールでの予習シリーズやスカイプでの電話ミーティング等)のおかげで、かなりの予備知識を得てから、ツアーに臨むことができ、濃い時間を過ごす事ができたと思います。

今回ツアーでは、自分の将来について、今まで考えていなかった(知らなかった)選択肢を見つける事ができ、また自分の将来のために何をしなければいけないか、しっかりと考える事ができたと思います。今までは、ドクターコースに進んだ後はポスドクや大学のポストへ進む、といった漠然としたイメージしか、自分の将来が描けていなかったのですが、シリコンバレーで活躍している方々は、実に多様な経歴を持っていて、研究だけに留まらず、いろいろな事をされていました。皆自分のやりたい事がある場所で働いており、どの人にも共通していたことが“自分の好きな事をしている”ということでした。そして、好きな事を続けていくには、

それに見合うだけの“努力”が必要であるということを知りました。

このツアーを通して、今までの自分の考えの甘さを思い知らされました。特に日本とアメリカの研究に対する姿勢の違いを知る事が出来ました。全ての人がそうではないと思いますが、日本では多くの学生が、研究テーマを担当教官から与えられ、それをこなしていただけなのに対して、アメリカでは、学生が自ら研究目的やそれを達成するためのプロセスを考え、教官を納得させた上で研究を行っています。自分も、今まではただ漠然と日々を過ごし研究生を送っている部分があったのですが、自分の目的を持ち、考えて研究することの大切さを知りました。自分の好きな研究を続けていくために、その研究への打ち込み方、考え方を改めねばならないと思いました。

このように、日本を出た人達と話をすることで、外から日本はどう見えているのかを知り、自分を含めどのように変わっていかなければならないかを知ることができました。そして、自分も一度、出来るだけ早く、そして長く、海外で経験を積みたいと強く思いました。今回のツアーを通して、自分で考え、自分で行動しなければ、人生は動いていかないこと知りました。自分の将来を具体的にイメージし、そこまでの道のりがはっきり見えてくるくらい、しっかりと考えてみようと思います。

そしてこのツアーを通して、他の参加者やオーガナイザー、パネラーの人達のような、普段は会うことのない人達と知り合い、話せたことはかけがえのないものだと思います。たった4日間でしたが、自分の考え方だけでなく人生も変えることが出来るくらい、有意義な4日間でした。

(参加者14)

ある学会で偶然お会いした JBC メンバーの方に西海岸で働けたらいいですねえ、といった趣向の話をした際、その気があるのならと誘われたのが、この JBC ツアー。当初、600ドルを超える参加費は、自腹を切るにはちょっと高く、代わりに何が買えるかを考えてしまう金額であったが、自分の将来への投資と考えて、本ツアーに申し込ませてもらった。投資には、リスクはつきもの。購入した株式も、失敗すれば紙切れになることがある。今回、私の本ツアーに対する「投資」は、今のところ大成功の感がある。すぐに仕事が見つかった、といった即効性のある話ではないものの、シリコンバレーで働いている多くの研究者、企業家の方に出会い、彼らの経歴や仕事、価値観、それぞれの目指す未来像などを耳にするうちに、おぼろげであった自分の未来像がはっきりと造形を表し、人様に見せられる様になった様に感じている。少なくとも自分が見て、自分が今何者であり、何になりたいかをはっきりとすることができた。ある演者の方が夢を叶えるには、よく考えてできるだけリアルに想像すること、それを毎日続けることといったお話をされていたが、このツアーの熱病に押されてか、時間と努力をすれば、自分の夢もそのうち叶えることができるように確信してしまった。彼らの成功した具体的な方法を並べて頂いたおかげで、それを自分のいる現状から近い順に並べて道を繋いでいけばいい。本場で見聞きした一つ一つの本物の部品、材料がそれを可能にする様に感じた。

抽象的な話でお茶を濁してしまったかもしれないが、ツアーでお会いしたシリコンバレーで働く人々(多くは日本人だったけれど、アメリカ人、ドイツ人などの方もいた)は、ポスドクとして活躍中であったり、大小様々なバイオテックで働いていたり、会社を興していたり、会社を成功させてセミリタイヤして豪邸に住んでいたり様々であった。それぞれの短編映画を組み合わせると3泊4日で「研究者としての成功の形」を実に厚みのあるノンフィクション映画として見せて頂いた気分だ。

自分にもそのノンフィクション映画の主演になる権利があるのではないかと感じた一方で、演者の皆さんの積み重ねてきた業績を目にしたことで、自分のこれまでの研究者人生がいかに薄っぺらく、世界では通用しないものかも実感したのも正直な感想だ。シリコンバレーで活躍することを夢に描く前に、まずは自分

の立場で、精一杯頑張っ成果を残し、万人に分る業績、シリコンバレーで埋もれてしまわない「名札」を手に入れたいと強く思った。ツアーに参加して、日本での仕事に対する意欲が増したのは、自分でも驚く副作用だった。夢の実現への確実な一歩を刻んでいくために、まずは今の職場で、身近な目標から達成し、来るべきその日に備えたい。

(参加者15)

今回私がシリコンバレーツアーに参加した理由は、自分自身のこれまでの経験から、意識の高い仲間と共に新しいことに挑戦するということにやりがいを感じ、それを突き詰めて考えたときベンチャーやシリコンバレーが自分の将来の延長線上にあり、実際に訪問することでなにかヒントが得られるのではないかと思い参加しました。こちらに来て、いろんな人の話を聞き、本物に触れることで自分のやりたいことに対するヒントが得られただけでなく、日本とアメリカでの働き方の違いや考え方の違い、そして教育レベルの違いなどに触れ私自身のこれからの生き方や働き方を見つめなおすよい機会にもなりました。それはアメリカに来て働く留学するという選択肢を期間中、様々な形で知ることが出来たからだと思います。アメリカで働くこともしくは留学することは、グローバルスタンダードな環境に身を置くことであり、それは自分が考える意識の高い人と新しいことに挑戦するという目標に近づく手段の一つとしてこのような競争の激しい環境に身を置いてみたいと感じました。このツアーの中で私が考えこれから活かしていきたいと思うことについて具体的にまとめて述べていきたいと思っています。

・シリコンバレーの風土

日本とアメリカでのビジネスの違いや、ベンチャーの存在意義の違いなど、アメリカと日本とは一概に比べられるものではないし、私がどっちが優れているかを決めることは少し難しいと思います。しかし、日本とアメリカを比べて明らかに日本が劣っていることがあるとすれば、マインドの違いだと思います。シリコンバレーではリスクを取って新しいことに挑戦することが尊敬され、リスクを取っている人にはちゃんと経済的にも大きく成功するチャンスがあり、それがアメリカ経済の循環の中にしっかり組み込まれていて、それがここにはそれがシンプルなルールとして存在しています。一方、現在の日本では、成功するか失敗するか分からないときに、失敗する要因があったら、思いっきりブレーキをひいてしまうような状況であり、また上場を含め何が成功でどのようにすれば良いのかが分からないというようなあいまいな状況です。日本でもベンチャー含めリスクを取って新しいことに挑戦している人達をもっと評価され、また経済的にも成功収められるような環境になれば日本も徐々に変わるように思いました。だから私自身も、リスクを取って挑戦するということに対して、10分の9を当ててやっぱり失敗したと言う人間ではなく、10分の1の成功にかけて頑張る、応援できる人間になりたいと思っています。

・アメリカで働く、留学すること

ツアー期間中、様々な人から最終学歴をアメリカで取るもしくは、いつかこちらで働く期間を作ったほうが良いという意見がありました。それは若いうちにグローバルスタンダードを理解しておきなさい！というメッセージであったように思います。確かに web などを使って日本でもシリコンバレーの情報やアメリカの大学の教育に触れることができることは間違いないのですが、シリコンバレーに来てみて、この環境で学ぶことで得られるもの大きさにとても驚きました。パネリストの方の多くがアメリカの大学で留学していた期間があり、またその経験から多くの影響を受けてこちらで働かれていることからそう感じました。その影響のほとんどがシリコンバレーでの人との出会いであり新しい価値観との出会いであったように思います。私自身もこのツアーの期間中やその前後で様々な人との出会い新しい価値観に触れツアーを通じて考えてもいなかったよ

うな留学であったりアメリカで働くといった高い視点で物事を捉えることができたように思います。それは私の目標として上記に挙げた意識の高い人と働き新しいことに挑戦することに似ていたし、このような環境が私の目標とする環境であるように感じました。

大学の授業料のこと、ビザのこと、英語など自分の能力のこと、アメリカで留学や働くことに対してたくさん壁がありますが、シリコンバレーマインド的に言えば、「強く思えば必ず叶うはずと勘違いし、とりあえずやってみよう！」この視点を失わずに頑張ろうと考えています。

私自身絶対シリコンバレーで働きたいということではなく、シリコンバレーも自分の選択肢の中に入っていて訪問して話を聞けばヒントが見つかるかもしれないという少しあいまいな状況で参加したにもかかわらず、シリコンバレーツアーというものを通じて自分のしたいことやどうやって生きていくかを考える良いきっかけとなりました。ツアーを開催し私たちのために色々していただいた JBC のオーガナイザー含め関係者の方々、私にとってとても良い時期に来ることができ、感謝しています。ありがとうございました。

(参加者16)

大学の中で研究がどのように社会とつながっているのかは、興味はあるけれどもなかなか実感としてつかみにくい。その理由のひとつに、自分の周りには実社会で研究者として長く働いたという経歴の人がいないことが挙げられる。本ツアーは、米国の最前線で活躍されている研究者の方々や企業で働いている日本人と直接お話する機会を得ることができ、その経験は私自身のこれからのキャリアを考えていく上で、大変勉強になったと思う。魂を揺さぶられるような、刺激的で圧倒的な存在感をかもし出すセミナーやパネリストの方々の言葉には、幾度もの修羅場を掻い潜ってきたからこそ言える経験に裏打ちされた説得力があり、つい無批判に飲み込まれそうになるほどであった。自分にとっていま何が欠けているのか、これから自分は本当は何をどうしたいのか、余計なことに惑わされずに、ふと立ち止まって考えるきっかけを得られたと思う。また、さまざまな分野から集まった意識の高いツアー参加者との会話から、経済に関する知識や積極性などの点で自分の至らなさを感じたり、また逆に啓発される場所などもあり、思い切って本ツアーに参加してみて良かったと、今振り返って思う。

(参加者17)

JBC のツアーに参加して大学生の頃にサークルでタイの NPO へ行ったスタディーツアーのことを思い出しました。タイで活動する日本の NPO を訪問するものでしたが、ボランティアという精神があまり無い自分が、真剣に活動している方の話を聞いたり、ツアーを企画・ガイドしてくれた現地の大学生とコミュニケーションするだけで、こんなにも自分と違った選択をしている人、置かれている環境が異なる人がいる事に気が付かされ、日本のシステムの中、偏った人生を送ってきた自分の頭と心に栄養とエネルギーを与えてもらった感じがしました。

今回の JBC ツアーは参加がバイオテックのことを知りたいという目的であったものの JBC ツアーにもそうした異なる考え方、人生を歩んできた方たちの話を聞いたり、コミュニケーションすることで自分の頭にオイルをさしたような感覚と活力をもらえたという思いが強くなります。こういった効果を持つツアーの側面はやはり、企画がボランティアで行われているというところに共通していると感じました(勝手に)。ツアーの意義を理解し、賛同し協力してくださっている方々の好意がツアーのそうした土壌を作っているのでしょう。また、JBC のツアーは実際にシリコンバレーで働く日本人に話を聞くということで唯の旅行で得られない話

それも日本人の視点が加わった話を聞く事ができる点も価値があると思いました。また、前者と違いシリコンバレーのバイオツアーであるので実際に知識としてその分野について得るものが大きいと感じました。

バイオテックへの投資の話を知ったが、投資の判断に経営陣を見ることや2年間の投資スパンを繰り返す話や現地にいてもそのバイオテックの将来性を見通すことは中々難しいと事などこちらで研究にいそしんでいたら知りえない貴重な話を聞かせていただきました。また、シリコンバレーはバイオの集積地であるということだがこの場所を加えてボストンなど他にも5つ集積地があるということをはじめて知りました。やはり集積地であることのメリットは大きく、人、情報、設備といったものの流れが良いと事であった。特に、メールではなく気軽に顔つき合わせて話すことができることの重要さは新しいアイデアが会って話すことにより生まれることやその人物がどういった人であることやメールなどでは伝わりにくい内容があるといった点にあるとのことでした。たしかに位置的に近いことの重要性は東北にいる自分は切に感じています。東北なのでツアー前のオフ会でも参加に障害があったという点ではタイムリーな話を聞いたと思いました。

働き出すと時間の制約が大きいので、こうしたツアーはぜひ学生のうちに行くべきだと強く思います。また、学生のうちだと色々なものに対して考え方がオープンで様々な価値観を吸収しようとするため、自分を内面から変えてくれますが、働き出してから行くと人生の方向性がある程度決めているので得られるもの、自分の今後に生かしていける事が相対的に少ないからです。

ツアーに参加して得られることは、意外と他の人たちと似通っていて目新しい感想はないかもしれませんが、他人の感じたことと同じでも自分で感じて、少しでも興味があるのであれば、実際に足を運んで現地で働く人と言葉を交わし、頭ではなく心で理解していくことに意義があると思いました。

(参加者18)

ツアー全般に渡るレポート「JBC ツアーに参加して」

他人の評価を気にして自分の生き方に自信がないときがありました。シリコンバレーで生き生きと生きる人々と接しました。自分の生き方に対して、なんだこれでいいじゃんと思いました。大きな発見です。自信につながりました。僕の夢は年収800万です。その過程で僕の80年の物語を作ります。楽しく生きるの精神でこれからも突っ走りたいです。これからの僕の人生、楽しみです。

体の奥の奥で何かメラメラするものをこのツアーで得ることができました。ツアー関係者に感謝。

(参加者19)

米国内で働こうと考えている人にとって、JBC ツアーは非常に貴重な体験を提供できると思います。企業を訪問するということは現地にコネクションのない個人の力では難しいことだと思いますので、その点このツアーでは貴重なチャンスを得ることができます。オーガナイザーや参加者の皆さんからよりダイレクトな情報も伺うことができ、自分のキャリアに関してより現実的に考える助けになるでしょう。

また、参加者の中で唯一学部生だった立場から、少し述べさせていただきますと、見学やパネル・セミナー内において話される科学的・専門的な事が分からず付いていけないのではないかと、ということに関して特に問題ありませんでした。分からないことは、パネリストや参加者の方に聞けば丁寧に教えていただけましたので、全くの五里霧中状態になることはないと感じました。もちろん私に専門的な知識があれば、もっと深い理解が可能だったと思いますので、その点は惜しく思います。

さらに、自分の先輩とも言える方々がどのような研究・仕事をし、どのように普段の生活を送っているかと

いうことをダイレクトに知ることができるので、このツアーは、学部生が将来を考えるにあたり非常に役に立つと思います。